

厚労科研 辻井班(発達研修開発)

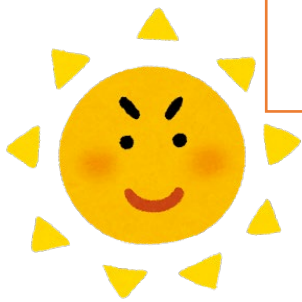
## 4) 4. 幼児期の言語面の支援

金沢大学人間社会研究域  
吉村 優子

## 幼児期の言語面の支援 内容

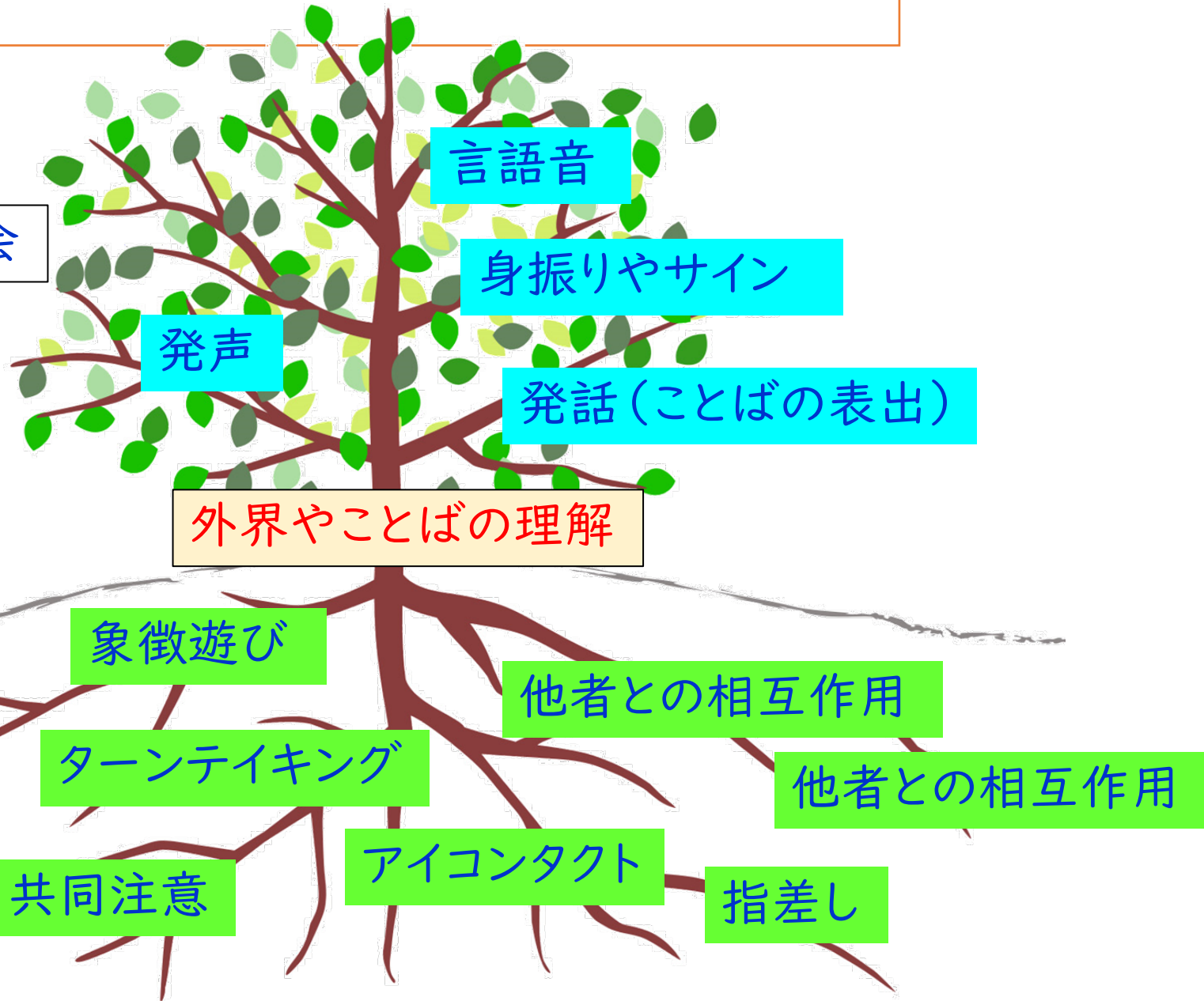
- 乳幼児期の言語発達について
- 乳幼児期（0-3歳）の言語支援
- 幼児期（～就学前）の言語支援
- 視覚支援
- 読み書き面への支援
- 吃音への支援
- 発音の問題への支援

# 言語・コミュニケーションの発達

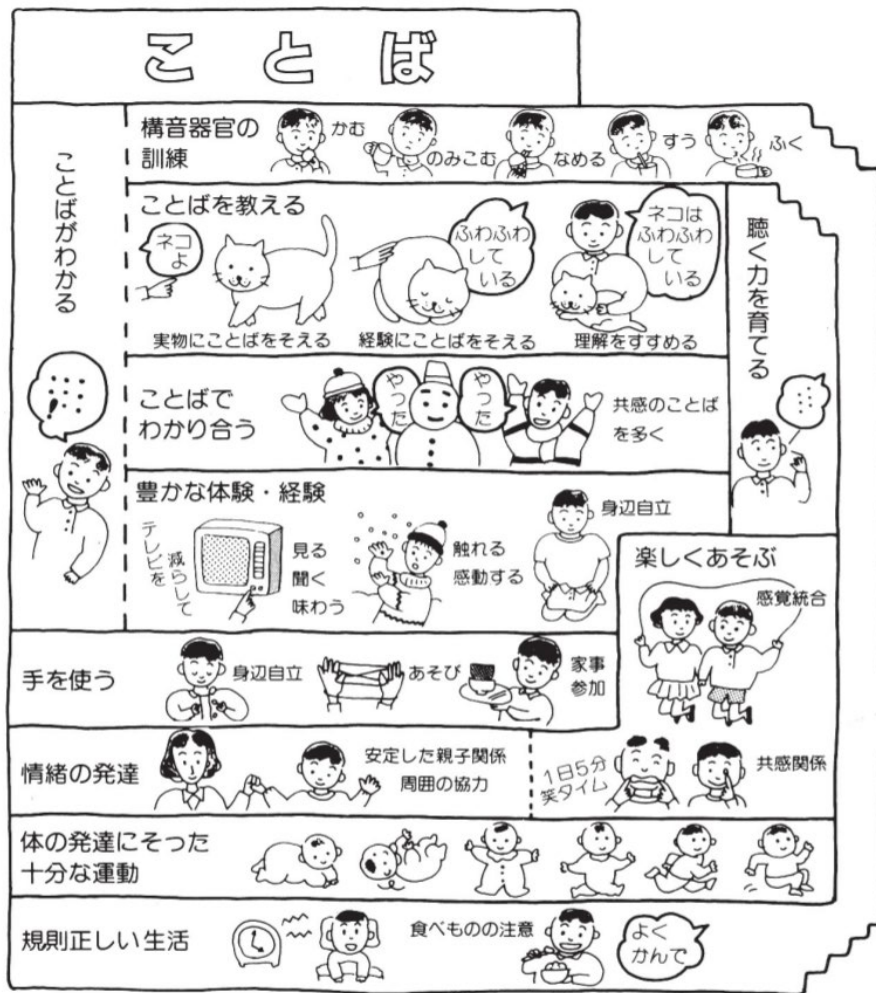


言語を聞く機会

言語を聞く力(聴力)



# ことばの発達を支える運動・認知機能の支援がまず重要



- 睡眠—覚醒リズム
- 運動発達
- 追視とものの永続性
- 目的—手段の関係
- 指差し
- 音声や動作の模倣
- 象徴遊び(ふり遊び)

ことばが出る前の育ちが重要

言語はいくつかの側面にわけられる

音声言語

聞く

話す

言語の理解

読む

書く

言語の表出

書字言語

# 言語知識 (Language)

音韻論

音と音の記号的関係

意味論

ことば(記号)の指示物の関係

統語論

ことば(記号)とことば(記号)の関係

語用論

ことば(記号)の解釈者(人)の関係



<p><u>音韻論的側面</u> 「さ」[sa] 「か」[ka] 「な」[na] という3つの音からなる。</p>	<p><u>統語論的側面</u> これは一つの単語である (文ではない)</p>
<p><u>意味論的側面</u> 水の中を泳ぐ、頭や尾がある生物を指すことばである。</p>	<p><u>語用論的側面</u> 文脈によって、「さかながおよいでいるよ」 「さかな、いるかな」と意味が変化する</p>

さかな

# 言語面の支援

言語領域の発達

コミュニケーション学習(語用論)

文法学習  
(統語論)

音形学習  
(音韻論)

語彙学習  
(意味論)

感覚・運動発達/認知発達/人への興味

# ことばの鎖

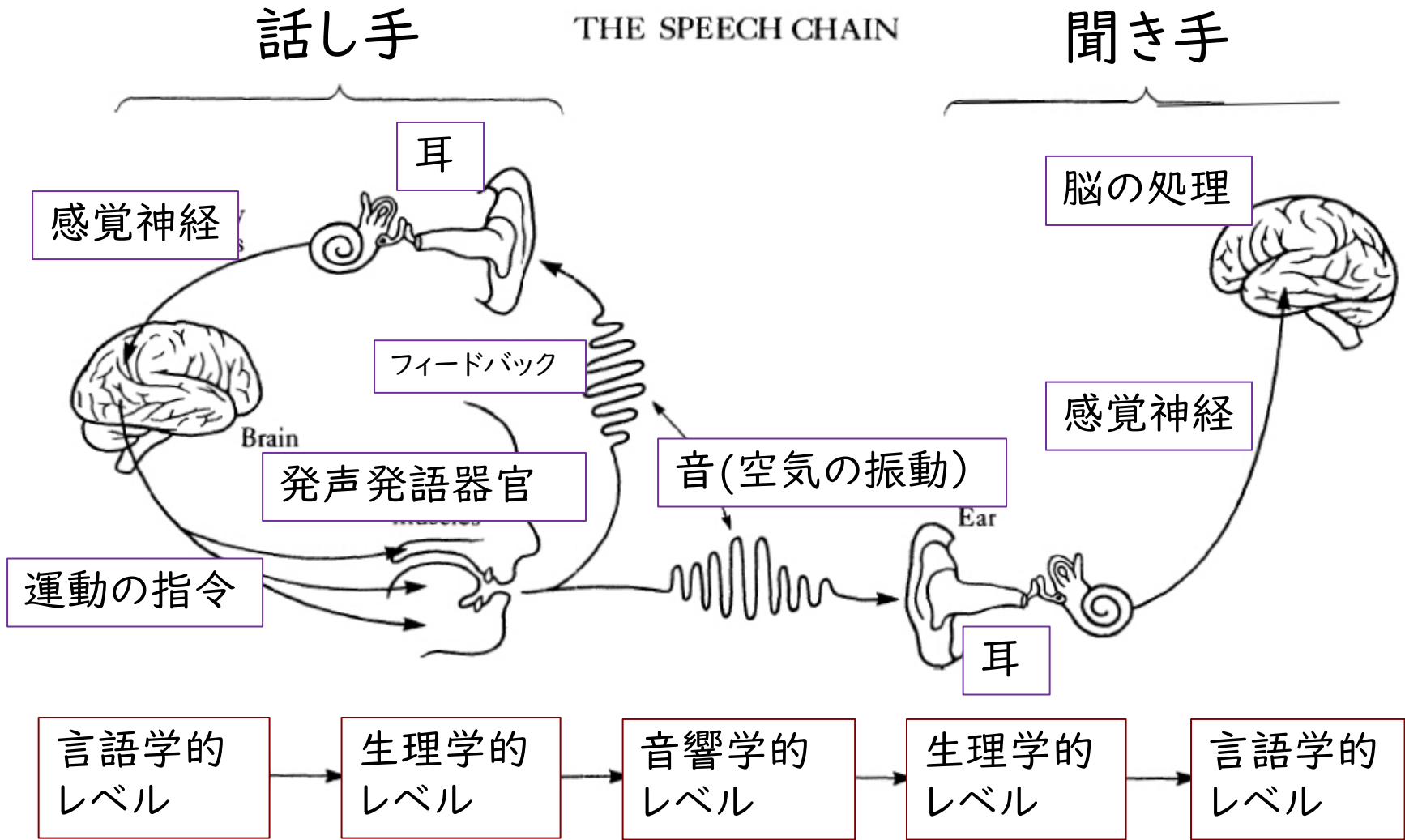


FIGURE 1.1 The speech chain: the different forms of a spoken message in its progress from the brain of the speaker to the brain of the listener.

Denes & Pinson (1963)を編集



# 発話（音声）のしくみ

声を構成する諸器官

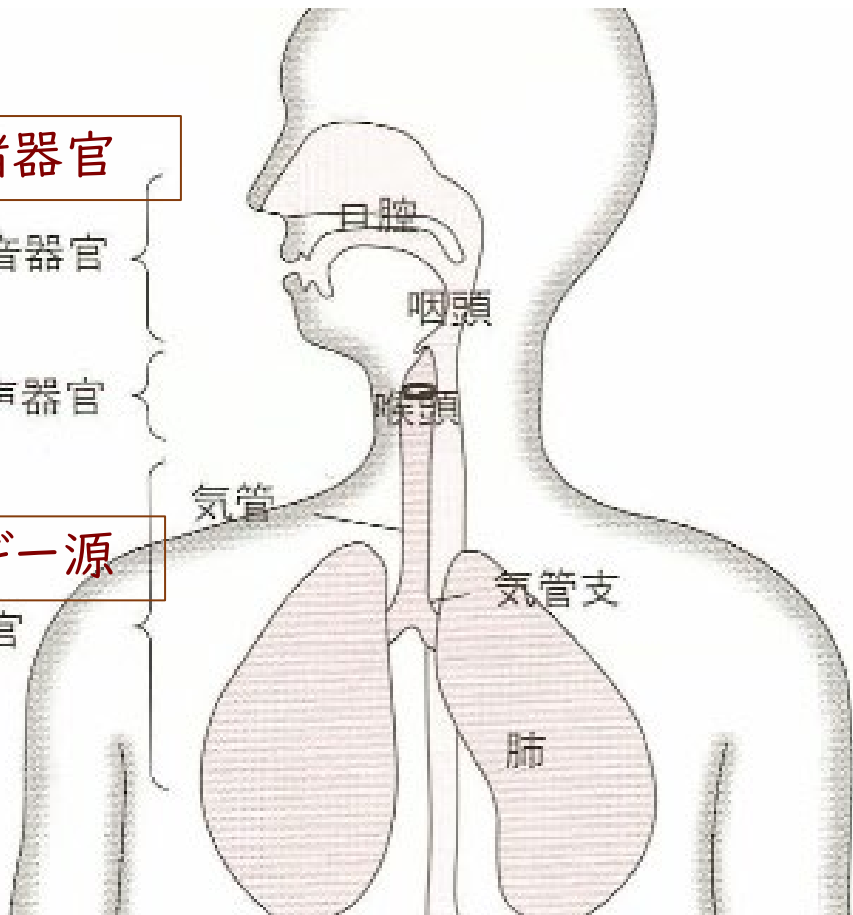
構音器官

声帯の振動

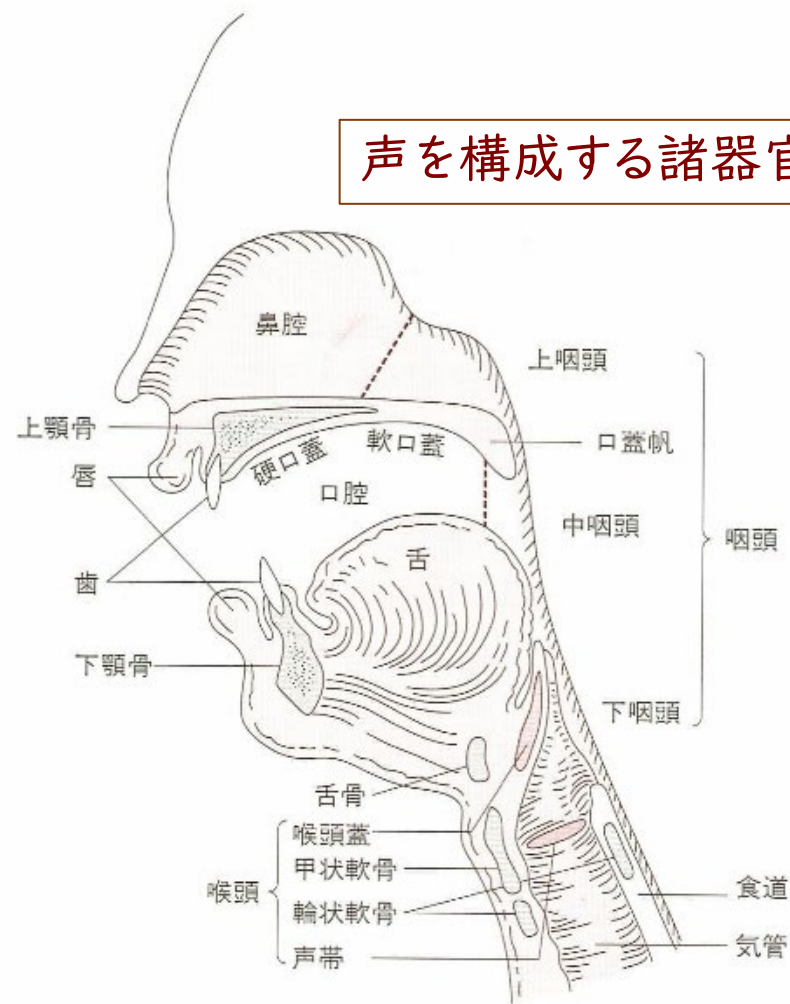
発声器官

発声のエネルギー源

呼吸器官



声を構成する諸器官



「運動障害性 構音障害学」より引用

# 幼児期にみられる言語の問題

## 言語知識 (language) の問題

音韻知識、文字知識、言葉の意味、文法など 獲得した言葉に関するすべての知識

### 言語理解困難

(単語や文章を理解する能力の不全)

### 言語表出困難

(単語や文章を使って、考えやメッセージを作成する能力の不全)

### 言語理解一表出困難

(単語や文章の理解と表出の両方に困難さがある)

## はなしことば (Speech) の問題

言語知識が言語音に運動変換されたもの。口唇や舌などの発声発語器官を用いる

### 構音障害(機能性)

(発声発語器官の形態・機能に異常がないにもかかわらず、音の誤りが習慣化している)

### 吃音

(ことばがスムーズに出てこない、どもること)

# 乳幼児期（0-3歳）の言語支援の目標

## 「From Communication to Speech :コミュニケーションからはなしことばへ」

- 1) 前言語期の行動を促す (Warren et al., 2008; Yoder and Warren, 1998).
- 2) 発声、単語の理解や表出を促す
- 3) 簡単な単語を組み合わせたたり文法を使って話すことを促す
- 4) 日常的な場面で使えることば（表現する力）を育てる

# 乳幼児期（0-3歳）の言語支援法

- **環境調整**

- 保護者へのかかわり方の支援
- ことばのモデルを聞いたり、ことばを使う機会を増やす

- **大人との共同遊び・共同活動**

- 子どもの興味に敏感に反応し、それに焦点を当てる

- **焦点的刺激 (Focused stimulation)** (Fey, 1993; Kouri, 2005)

- 習得すべき特定の言語形式を自然にできるだけ高頻度で集中的に聞かせる

- **文脈設定型・機会利用型指導 (スクリプト)** (Schank and Abelson, 1977)

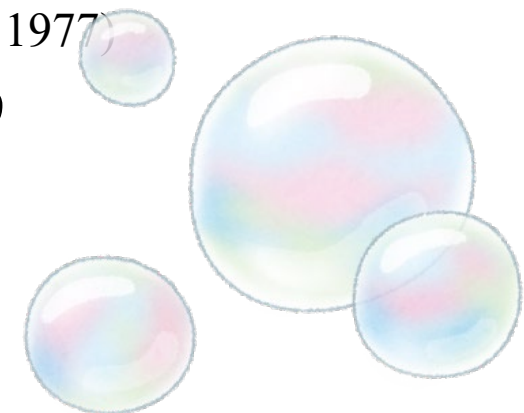
- 子どもに身近な遊びや出来事の流れなどの短い場面を使う

- **相互的な絵本読み** (Whitehurst et al., 1994)

- 絵本読みの中に対話を盛り込む

- **リキャスト** (Cleave et al., 2015; Proctor-Williams et al., 2001)

- 子どもの不完全な発話を修正して聞かせる



## 家族（保護者）へのかかわり方の支援 (Rush and Shelden, 2008)

- ・ **エキスパンション、リキャスト** (Cazden, 1965; Nelson et al., 1973; Cleave et al., 2015)  
子どもの言ったことばを意味的・文法的に広げたり、修正して返す  
(例: (子)「ブッブー」→(親)「ブッブー、出発!」)
- ・ **パラレルトーク**  
子どもの行動や気持ちを言語化する  
(例: 子どもが泣いているとき、「いたいいたい」)
- ・ 子どものことばに対する受容性・応答性を促す
- ・ 親が子どもとのかかわりに自信がもてるように支援する

# 幼児期（～就学前）の言語支援の目標

## 1) 語い

- 認知の状態を表す語の獲得（思う、考える）
- 一般的な動詞の獲得
- 時間、場所、数量に関する用語

## 2) 文法(統語面)

- 文章で話す
- 助詞、助動詞の使用
- 過去形、未来形、現在形の区別

## 3) 日常場面で使えることば(語用面)

- 話題に沿って会話する、聞き手の立場に立って話す、争いを解決するためにことばを使用するスキル

## 4) 読み書きの前段階(プレリテラシー)

- 単語の音の構成の認識、文字の概念、物語の構造に関する知識

# 幼児期(～就学前)の言語支援法

- **モデリング** (Vasilyeva et al., 2006; Weismer and Murray-Branch, 1989)
  - ターゲットとすることばのモデルを呈示する
- **理解力を促す**
  - 単語や文章、物語の内容に基づいて、言語や非言語で反応してもらう
  - 興味のある素材を使う
- **エクステンション・エキスパンション・リキャスト**
  - 子どもの発話に意味や文法を付け加えて返したりして会話(応答)する
- **イミテーション** (Camarata et al., 1994; Connell, 1987; Connell and Stone, 1992)
  - 発話を模倣してもらう

子どもの主体的な活動の中で、子どもが自発的に、聞いたり真似したりする機会を増やすように工夫する



# 幼児期(～就学前)の言語支援法

- 国リハ式<S-S法>言語発達遅滞検査 (小寺ら, 1995)
  - 言語発達遅滞の臨床現場で作成されてきたプログラム、0-6歳を対象とした包括的な評価・訓練プログラム
  - 自閉スペクトラム症児では、コミュニケーション態度へのアプローチが不可欠
- インリアル (Inter Reactive Learning and Communication)(竹田,1994;大井ら,2004)
  - 子どもの自発性を尊重する
  - ビデオ分析等を通して母子関係の形成や子どもとのかかわり方を検討
- 文脈設定型・機会利用型指導(スクリプト) (長崎ら, 1998)
  - スクリプト(既存の文脈)を利用した小集団指導 など
  - コミュニケーション機能、語彙・構文、コミュニティ・スキル などへのアプローチ
- 拡大・代替コミュニケーション
  - Augmentative and Alternative Communication



## 国リハ式 (S-S法) 言語発達遅滞検査 (小寺ら, 1995)

- ・ 言語発達遅滞の臨床現場で作成されてきたプログラム
- ・ 医療機関で言語聴覚士が実施
- ・ 0-6歳を対象とした包括的な評価・ 訓練プログラム
- ・ 言語の記号形式-指示内容関係の段階の評価と指導
- ・ 自閉スペクトラム症児では、練習した言葉を実際のコミュニケーションで使う練習も必要

小寺富子・倉井成子・佐竹恒夫(言語発達障害研究会)編著 1998  
国リハ式(S-S法)言語発達遅滞検査(改訂第4版) エスコアール

# インリアル (Inter Reactive Learning and Communication) (竹田,1994;大井ら,2004)

- ことば以前のコミュニケーションに着目
- 子どもとのやりとりをビデオ撮影し、大人側のかかわり方を見直す
- 相互に反応しあうことで、学習とコミュニケーションを促進する

## コミュニケーションの原則 (グライス、1975「会話の公理」)

- ①子どもの発達レベルに合わせる
- ②会話や遊びの主導権を子どもに持たせる
- ③相手が始められるように待ち時間をとる
- ④子どものリズムに合わせる
- ⑤ターン・テイキング (やり取り) を行う
- ⑥遊びや会話を共有し、コミュニケーションを楽しむ



# SOUL（ソウル）－大人が取るべき基本姿勢と心理言語学的技法

S /Silence

子どもを静かに見守る

O /Observation

子どもの興味や遊びを観察する

U /Understanding

子どもの気持ちや発達のレベルや問題を理解する

L /Listening

子どもが言おうとしていることに心から耳を傾ける

技法	内容
ミラリング	子どもの行動をそのまま真似る
モニタリング	子どもの声やことばをそのまま真似る
パラレル・トーク	子どもの行動や気持ちを予測し、言語化する
セルフ・トーク	大人自身の行動や気持ちを言語化する
リフレクティング	子どもの言い誤りを正しく言い直して聞かせる
エキスパンション	子どものことばを意味的、文法的に広げて返す
モデリング	子どもが言うべき言葉や行動のモデルを示す

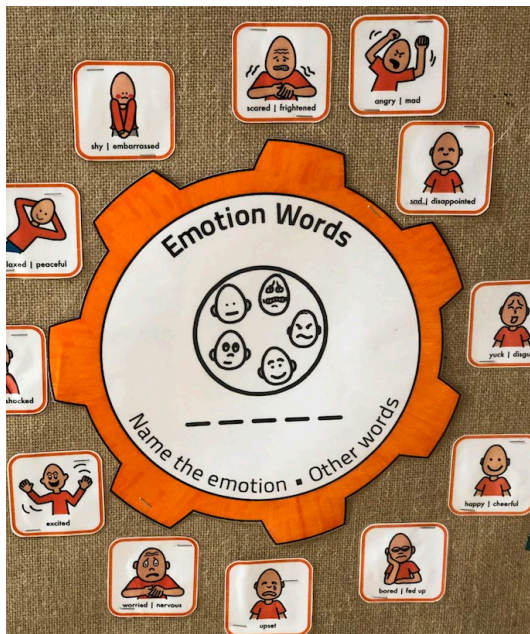
## 文脈設定型・機会利用型指導(スクリプト) (長崎ら, 1998)

- 子どもが発話する機会を多くするような環境条件を整える
- 段階的にヒントを出す
  - ① 子どもが発話で要求してくるのを待つ(どのくらい待つかを決めておく)
  - ② 子どもが発話しないときには、大人は「何が欲しいの?」などと促す  
(言語プロンプト)
  - ③ それでも適切な発話がない場合には、発話のモデルを示す  
(言語モデル)
- 適切な発話がなされた場合には、すぐに子どもが要求した物や行為を提供する

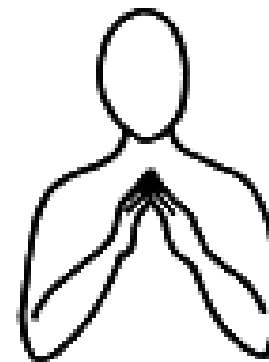
# 拡大代替コミュニケーション 視覚支援

	音声系	非音声系
補助系	人工合成音声 デジタル処理音声	実物 絵 写真 図形シンボル 文字
非補助系	スピーチ	表情 視線 身振り 手指サイン

視覚  
支援



絵カード交換システム  
(PECS)  
(Bondy & Frost, 2001)



[家(うち)]



[食事/ごはん]

マカトンサイン

# 読み書きへの支援

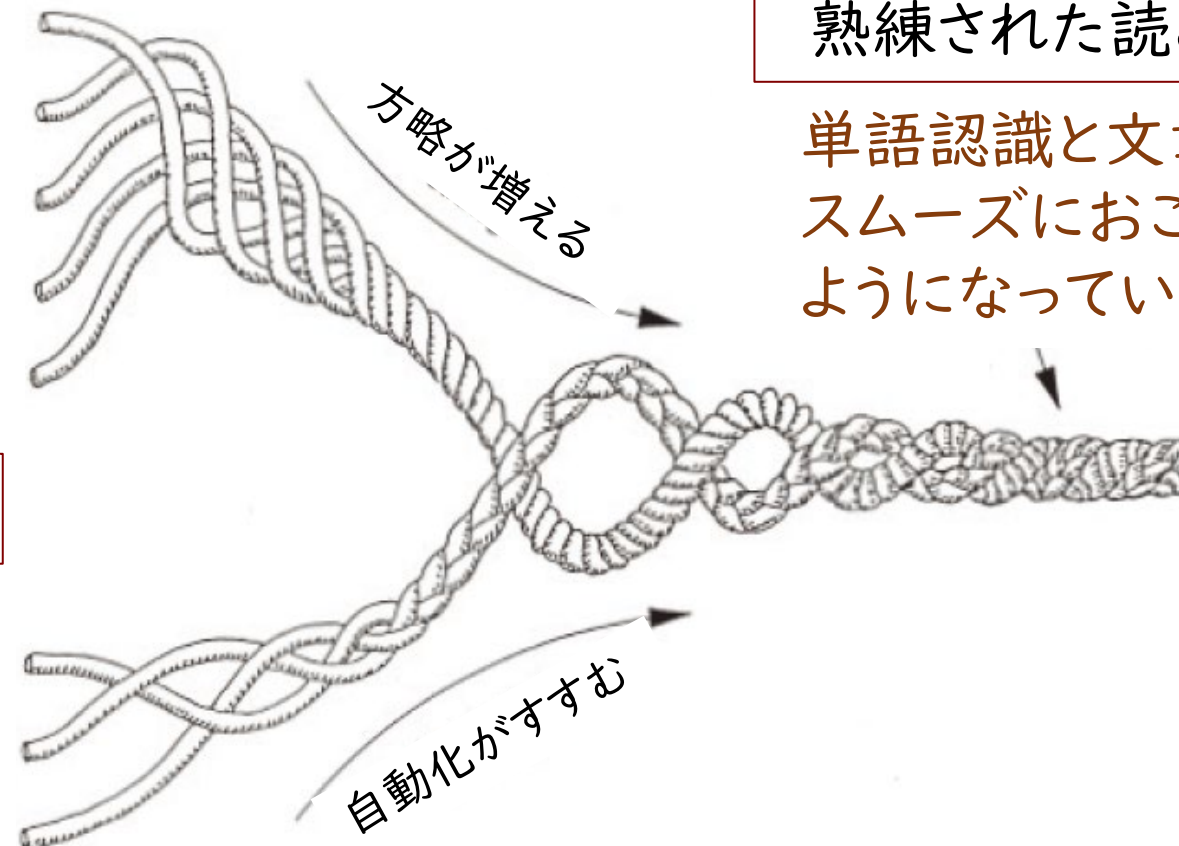
## 初期の読みの発達(リーディング・ロープ)

### 言語理解

背景知識 (事実・概念 など)  
語い (量、質 など)  
言語構造 (文法、意味 など)  
言語的推論 (推論、比喻・隠喩 など)  
文字に関する知識 (文字への気づき、種類 など)

### 語の認識

音韻意識 (音韻、音素 など)  
文字→音への変換  
(ひらがなと音の対応、  
音の認識 など)  
視覚的認識  
(身近なものや人の名前 など)



### 熟練された読み・読解

単語認識と文章理解が  
スムーズにおこなわれる  
ようになっていく



# 音韻意識への支援

## 音韻意識 (Phonological Awareness)

音素、音節、単語の音の構造に関する気づき

単語の開始の音、同定、カウント、操作（削除や置換など）操作ができる力  
読み書き能力に関連 (Torneus, 1984)



- 音韻認識プログラム (Hesketh et al., 2007)

はじめの音と最後の音、音の付け加え、削除など音韻を意識させるプログラムにより、音韻意識が改善

# 音韻意識への支援

	内容	ことば遊びの例
音韻分解	単語を音韻に分解する	「グリコ」→「グ」「リ」「コ」 「ど・れ・に・し・よ・う・か・な」
語頭音の抽出	単語の語頭の音がわかる	「グリコ」「ぐみ」は『グ』から始まる かるた取り「アイスはあまいの『あ』」
語尾音の抽出	単語の語尾の音がわかる	「グリコ」「たいこ」は『コ』で終わる しりとり「グリコ」「こま」「マスク」・・・
語中音の抽出	単語の語中の音がわかる	「グリコ」「ぬりえ」の真ん中の音は『り』 「れいぞうこ」には『ぞう』が隠れている
逆唱	単語を逆から言える	「にわ」の反対は「わに」 「トマト」は反対も「トマト」
拍削除	単語中の音を削除できる	「スイカ」から『ス』を取ると「いか」 「かがみ」から『が』を取ると「かみ」

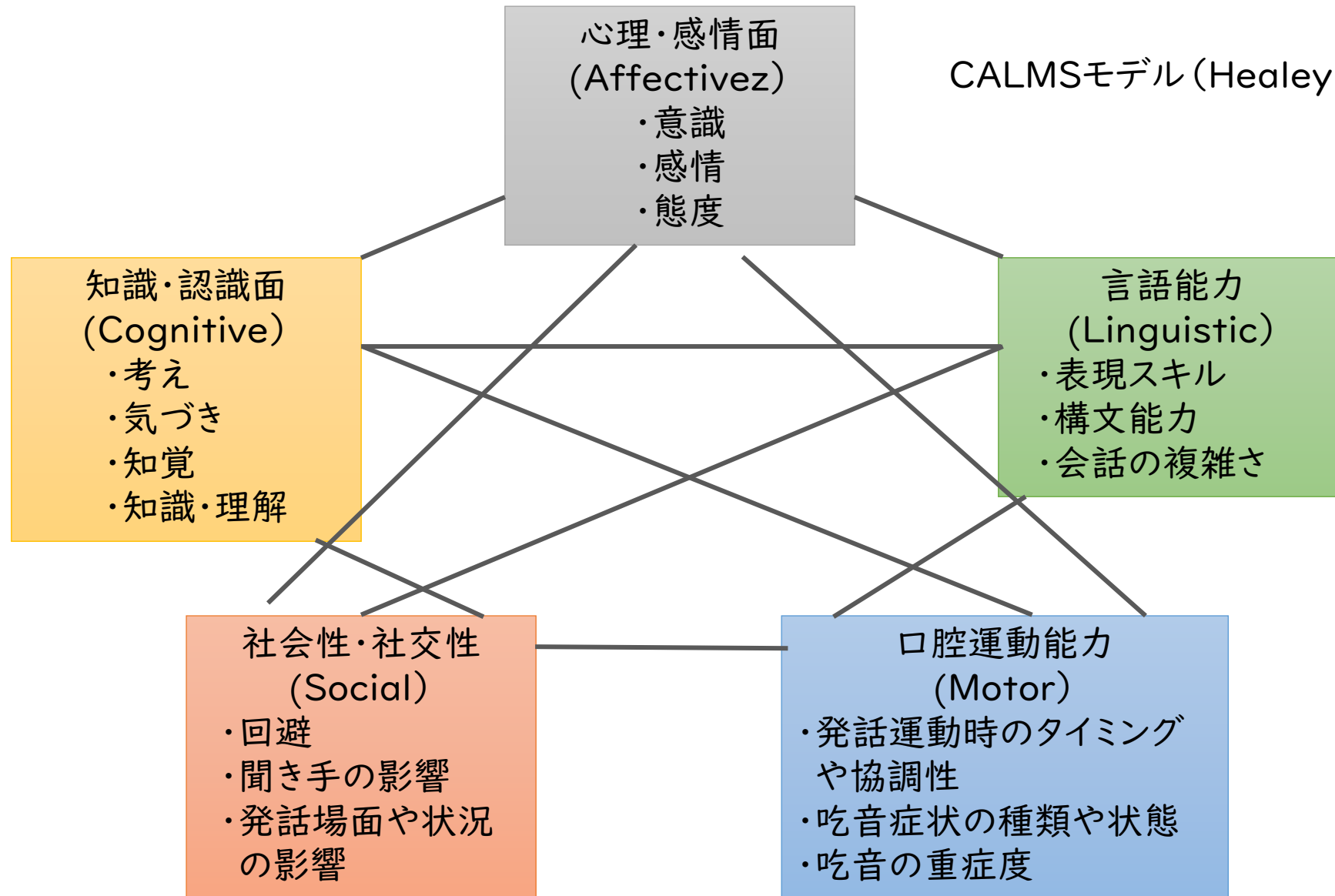


# 吃音とは

- 「どもり」と表現されることが多い
- 3大言語症状
  - 繰り返し「わ、わ、わ、わたし」
  - 引き伸ばし「わ————たし」
  - つまり「……………わたし」
- 好発年齢は2歳～4歳、自然治癒する場合もある
- 学齢期以降まで続くのは、1%程度
- 男児に多い
- $\alpha$ 症状 (Conture, 1990) 不安定な発話、いいよどもみ、ためらい
- その他の特徴 ロやのど、身体の緊張やこわばり、随伴症状

# 吃音への支援

CALMSモデル (Healey et al., 2004)



# 幼児期の吃音への支援

## 環境調整

- 心理不安・プレッシャーを除く（ゆったりとした環境で）
- Demand-Capacity モデル (Starkweather, 1990) に基づき要求水準を下げる
- ビデオ分析を通して関わり方を振り返る
- 話し方ではなく、話す内容に注目する
- 肯定的・受容的態度を
- 周囲の理解・協力を求める  
(成功体験を持たせる、からかいや発話をめぐるトラブルを避ける)

# 幼児期の吃音への支援

- 環境調整、遊び場面を利用した間接アプローチが中心
  - 話すことへの否定的な意識を育てない、発達・成熟を待つ
- 「気づかせない」ではなく、「気づき」に寄り添う
  - オープンに話し合える雰囲気をつくる
- 直接アプローチは補完的、限定的に用いる
  - 本人の困り感がある、環境調整では改善が見込めない場合には、専門機関の利用(言語聴覚士)を勧める

# 構音障害とは

- 機能的構音障害

器質的原因がみつからないにもかかわらず、  
同年齢集団から著しく逸脱した構音

- 器質性構音障害

聴力障害、口蓋裂などの発声発語器官の形態異常、神経疾患  
に由来する運動障害によって、正しい構音が困難

# 機能性構音障害について


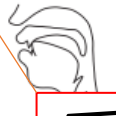





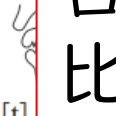
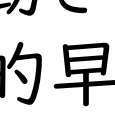

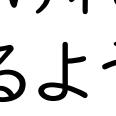



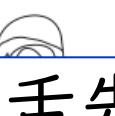

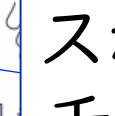
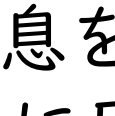



- 省略 (/wsagi/→/ wagi/)
- 置換 (/wsagi/→/wtagi/)
- 付加「クリスマス」→「クリスクマス」
- 歪み (はっきりと他の音に置き換わったり省略されているわけではないが、正しくない)



(よくある例)

- 「ツ」→「チュ」、「サ、ス、セ、ソ」→「シャ、シュ、シエ、シヨ」
- カ行→タ行
- 息が口の端から漏れるような発話(特にイ行) など

# 日本語の子音

点 法	りょうしんおん 両唇音	しけいおん 歯茎音	しけいこうごういおん 歯茎硬口蓋音	こうごういおん 硬口蓋音	なんこういおん 軟口蓋音	こうがすすいおん 口蓋垂音	せいもんおん 声門音
びおん 鼻音	 [m] マ行・ミヤ行	 [n]					
はれつおん 破裂音	 [p] パ行・ピヤ行 [b] バ行・ビヤ行	 [t] タ行 [d] ダ行			 [k] カ行・キヤ行		
まさつおん 摩擦音	 [ɸ] フ	 [s] サスセン [z] ザズゼン	 [ç] シャ				
はさつおん 破擦音		 [ts] ツ [dz] ザズゼン	 [tç] シャ	 [dç] シャ			
はじおん 弾き音		 [r] ラ行・リヤ行					
せつきんおん 接近音				 [j] ヤ行	 [ɰ] ワ		

唇の動きに問題が無ければ、  
比較的早くから言えるようになる

歯茎と舌先の間の狭いスペースから息を出したり、  
舌を上を反らす必要があり  
口の中の動きが複雑で難しい

# 日本語の子音

- 早く言えるようになる音と就学前後にようやくはっきりと言えるようになる音がある。
- 耳の聴こえにくさがあったり、ことばの発達に遅れがある場合、はっきり発音できるようになる時期は遅くなる
- 発達の段階を考慮し、ことばの理解やコミュニケーション面の支援を優先する場合も



## 構音発達の要件・条件

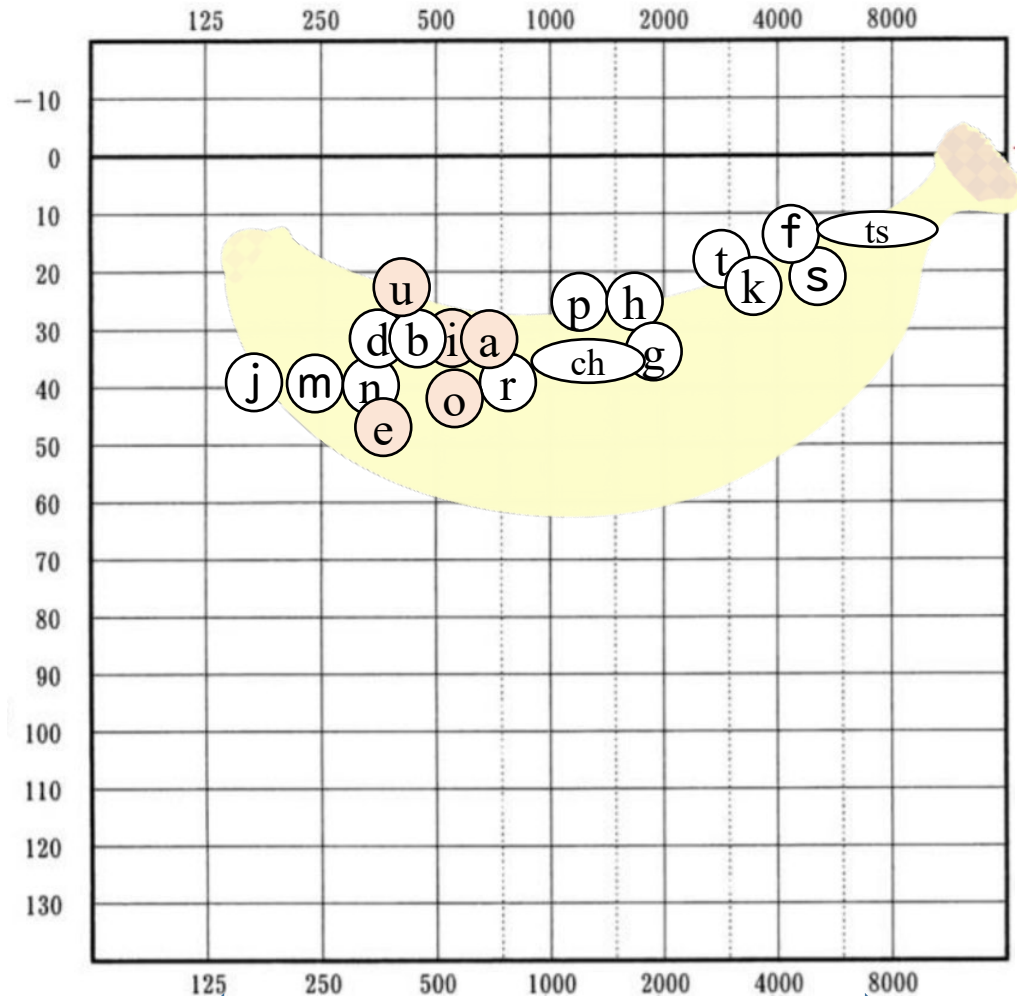
- 周囲の音を聞く力(聴力)
- 周囲の音を学習するための能力、姿勢
- 構音を作り出すための発声発語器官の形態や機能
- 話すことのもととなる、人との関係を構築したいという意欲
- 身体の成長を含めた全体的発達
- 子どもたちにモデルを提供する環境

# 日本語を聞き分ける力 –スピーチバナナー–

小さい音が聞こえる状態

音の大きさ (dB)

大きい音が聞こえる状態



特定の高さの音に聞こえづらさがある場合、耳垢の溜まりすぎ、滲出性中耳炎等で音の通る道がふさがっている場合に発音に影響することがある

低い音

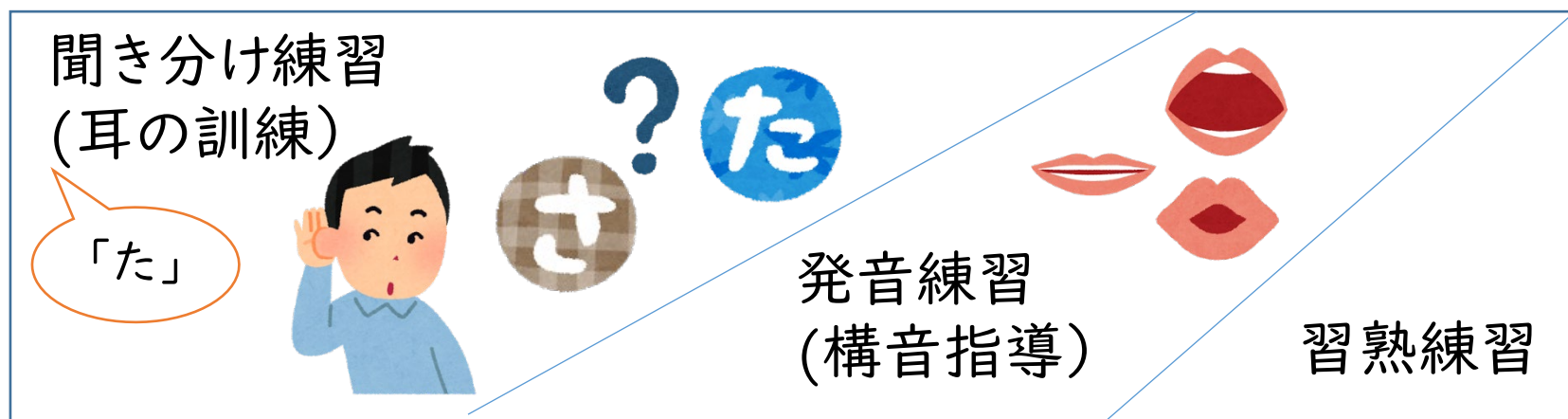
高い音

# 話し方(構音)への支援

- 構音器官の機能訓練

4歳頃になっても話し方がはっきりしない、本人に困り感がある場合な

## 【構音訓練の流れ】



- CSS トレーニング (C-chewing, S-sucking, S-swallowing)

「口の体操」



# 言語聴覚士 (Speech Therapist) の活用

ことばの発達に不安がある

話し方が気になる

ことばの発達段階  
の評価と練習

聴こえの評価  
と練習

話し方の特徴  
の評価と練習

摂食嚥下機能  
の評価と練習

- ・医療機関（大学病院、総合病院、専門病院、地域医院 など）
- ・福祉・保健施設（デイケア、訪問リハビリテーション事業所 など）
- ・教育機関（小中学校、特別支援学校、大学 など）

日本言語聴覚士協会のHP「言語・発達障害」で検索 <https://www.japanslht.or.jp/>  
学齢児の場合は、学校に相談し、「ことばの教室」を利用できることも

## まとめ：乳幼児期の言語支援

- ことばが出る前の育ちにも着目する
- 生活の中で使える言葉を育てる
- 身振りや絵、写真などの視覚的な支援が理解やことばの習得を助ける
- 読み書きの基礎の発達（文字への気づき、音韻意識 など）に対する支援も視野に入れる

# 参考文献・引用文献

- 小寺富子 監修(1992)「言語聴覚療法臨床マニュアル」共同医書出版社
- 秦野悦子 編(2001)「ことばの発達入門」大修館書店
- Denes & Pinson (1963) The Speech chain/the physics and biology of spoken language. Bell Telephone Laboratories. Inc.
- 廣瀬肇 他(2001)「言語聴覚士のための運動障害性 構音障害学」医歯薬出版株式会社
- Rosenbaum S. et al. (2016) Speech and Language Disorders in Children. The National Academies
- Warren, S. F. et al. (2008) A randomized trial of longitudinal effects of low-intensity responsivity education/prelinguistic milieu teaching. *Journal of Speech, Language, and Hearing Research* 51(2):451-470.
- Yoder, P. J et al. (1998) Maternal responsivity predicts the prelinguistic communication intervention that facilitates generalized intentional communication. *Journal of Speech, Language, and Hearing Research* 41(5):1207-1219.
- Fey, M. E et al. 1993. Two approaches to the facilitation of grammar in children with language impairment: An experimental evaluation. *Journal of Speech, Language, and Hearing Research* 36(1):141-157.
- Kouri, T. A. (2005) Lexical training through modeling and elicitation procedures with late talkers who have specific language impairment and developmental delays. *Journal of Speech, Language, and Hearing Research* 48(1):157-171.
- Schank, R. C., and R. P. Ableson (1977). *Scripts, plans, goals, and understanding*. Hillsdale, NJ: Lawrence Earlbaum Associates.
- Whitehurst, G. J et al. (1994) A picture book reading intervention in day care and home for children from low-income families. *Developmental Psychology* 30(5):679.
- Cleave et al. (2015) The Efficacy of Recasts in Language Intervention: A Systematic Review and Meta-Analysis. *American Journal of Speech-Language Pathology* 24(2)
- Proctor-Williams et al. (2001) Parental recasts and production of copulas and articles by children with specific language impairment and typical language. *American Journal of Speech-Language Pathology*, 10, 155–168.
- Rush, D. D. and M. L. Shelden. (2008) Tips and techniques for effective coaching interactions. *Brief Case* 1(2):1-4.
- Cazden, C. B. (1965) *Environmental assistance to the child's acquisition of grammar*. Cambridge, MA: Harvard University.
- Nelson, K. E. et al (1973) Syntax acquisition: Impact of experimental variation in adult verbal interaction with the child. *Child Development* 44(3):497-504.
- Vasilyeva, M., J. et al. (2006) Effects of language intervention on syntactic skill levels in preschoolers. *Developmental Psychology* 42(1):164.
- Weismer, S. E., and J. Murray-Branch. (1989) Modeling versus modeling plus evoked production training: A comparison of two language intervention methods. *Journal of Speech and Hearing Disorders* 54(2):269-281.
- Camarata, S. M. et al. (1994) Comparison of conversational recasting and imitative procedures for training grammatical structures in children with specific language impairment. *Journal of Speech, Language, and Hearing Research* 37(6):1414-1423.
- Connell, P. J. (1987) An effect of modeling and imitation teaching procedures on children with and without specific language impairment. *Journal of Speech Language and Hearing Research* 30(1):105-113.
- Connell, P. J., and C. A. Stone. (1992) Morpheme learning of children with specific language impairment under controlled instructional conditions. *Journal of Speech and Hearing Research* 35(4):844-852.
- 小寺富子 著(2009)「言語発達遅滞の言語治療」診断と治療社
- 竹田契一・里美景子 編(1994)「インリアル・アプローチ」日本文化科学社
- 大井学・大井佳子 著(2004)「子どもと話すー心が会おうINREALの会話支援」ナカニシヤ出版
- 長崎勤・佐竹真次 著(1998)「スクリプトによるコミュニケーション指導」川島書店
- 大石敬子 編(2001)「ことばの障害の評価と指導」大修館書店
- Bondy, A. & Frost, L. (2001). The Picture Exchange Communication System. *Behavior Modification*, 25, 725-744.
- 佐竹真次(2000) 発達障害児の言語獲得研究に関する近年の動向 *Yamagata Journal of Health Science* 3, 83-97.
- Scarborough, H. S. (2001). Connecting early language and literacy to later reading (dis)abilities: Evidence, theory, and practice. In S. Neuman & D. Dickinson (Eds.), *Handbook for research in early literacy* (pp. 97–110). New York, NY: Guilford Press.
- Tornéus, M. (1984). Phonological awareness and reading: A chicken and egg problem? *Journal of Educational Psychology*, 76(6):1346–1358.
- Hesketh et al. (2007) Teaching phoneme awareness to pre-literate children with speech disorder: a randomized controlled trial. *International Journal of Language & Communication Disorders*. 42(3): 251-271
- 今泉敏 著 (2020)「音声学・言語学」医学書院
- Healey et al. (2004) Clinical applications of multidimensional model for the assessment and treatment of stuttering. *Contemp Issues Commun Sci Disord*. 31: 40-48
- Kelman, E., & Nicholas, A. (2008). *Practical intervention for early childhood stammering: Palin PCI Approach*. Routledge
- Gottwald, S.R. (2010). Working with preschoolers who stutter and their families: A multi-dimensional approach. In B. Guitar and R. McCauley (Eds.), *Treatment of stuttering: Established and emerging interventions*. Baltimore, MD: Lippincott, Williams, & Wilkins.
- Healey et al. (2004) Clinical applications of a Multidimensional Approach for the Assessment and treatment of Suttering communication science and disorders. 31: 40–48
- Starkweather CW and Gottwald SR(1990) The demands and capacities model II: Clinical implications. *J Fluency Disord*, 15: 143-157
- 飯高京子 他 (1987)「構音障害の診断と指導」学苑社